

<http://kubo-3.ia.noda.sut.ac.jp/>

多くの方のご協力を得て、COSTAは4年間続いています。そこで、簡単ですが、謝辞を示します。いつも暖かい助言をいただく田村明久さん(電通大)、片岡靖詞さん(防衛大)、発表者のご推薦をいただいている森雅夫先生(東工大)にお礼を述べます。昨年度までのCOSTAを名実ともに牽引していた松井、猿渡さんには感謝の意を述べるとともに、今後ともご協力をお願いします。

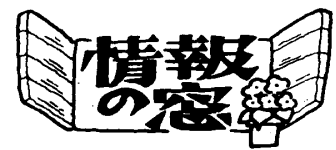
と、ここまで読まれた方には「COSTAは非常に硬く生真面目な研究会」という印象を与えてしまうかもしれないので、お断りをいれさせてもらいます。研究会終了後は必ず懇親会(飲み会)があります。飲まずに

はやってられないというわけではありません。研究会会場は東京商船大学(門前仲町)で開かれること多いので、そこはまさに江戸の下町であり、旨く安い肴と酒が溢れています。恐れおおくて日頃なかなか話しかけられない先生もいらしています。となれば、「飲みにいけー!」ということで、懇親会となるわけです。

COSTAが熱気、活気、覇気のみなざる研究会&懇親会であることを、ぜひ、多くの方に参加して味わっていただければ、と考えます。特に最後まで読んでいただいた律義な貴兄の参加をお待ちしております。また、若手研究者の発表、先輩方からチュートリアルも随時募集していますので、ご希望の方は上記までお問い合わせをお願いします。

KSMAP「OR若手の会」の紹介

岩田 覚(京都大学)



本年度から、関西支部の研究部会として「OR若手の会」(主査:茨木智(京都大学工学部))が発足しました。これは、主として、関西地方に在住でオペレーションズ・リサーチに携わる若手の研究者や学生間のコミュニケーションを深めるための集まりであり、研究発表やゼミ形式の勉強会を通じて、お互いの情報を交換し、知識を共有しようという趣旨で設立されました。

この設立趣旨にのっとり、記念すべき第1回目の会合として、6月2日(金)、京都祇園において、メンバーの親睦を図るコンパが開かれました。「ORを肴に、酒でも飲もうか」というテーマのもと、約40名の参加者が集まりました。ORの将来に対する期待と不安、夢と希望に座が盛り上がったことは言うまでもありません。もちろん、夢と希望だけでは研究は進みません。6月30日(金)に住友金属工業で開かれた第2回目の会合では、京都学園大学の瀬川良之さんと住友金属工業の平山克己さんが研究発表をしました。

瀬川氏の講演は、「テレビが故障した。あなたは修理にいくら掛けますか!」という題で、故障取り替え問題を扱ったものでしたが、その奇想天外な話題の展開によって、終始聴衆を圧倒していました。

平山氏の講演は、遺伝アルゴリズムの鉄鋼への応用、特に、厚板スラブ設計への適用に関するものでした。遺伝アルゴリズムを中心にメタ戦略を研究されている京都大学の柳浦睦憲さんに感想をお願いしたところ、「遺伝アルゴリズムなど、メタ戦略の研究においては、

現実の場面で何が要求されているかを知ることが大変重要です。平山さんの発表は、工場が必要とされる問題を対象としたものであり、大いに参考になりました。また、平山さんの開発されたアルゴリズムは、実用のシステムに利用されるとのこと。メタ戦略の研究者として、心強いかぎりです」とのことでした。

一方、住友金属工業の松崎健一さんも、「大学における理論の研究と企業における現場への応用の接点として、『若手の会』は非常に有用な場であると実感いたしました。今後もこのように産と学が協力しあって、さらなるORの発展へつながれば本当に理想的だなと思いました」とコメントしています。

第3回目の会合は、7月22日(土)に奈良先端科学技術大学院大学でおこなわれ、Johns Hopkins大学のJ. S. Pangさんに、半正定値計画法に関する講演をお願いしました。講演の内容は半正定値計画法の全体像よりも、むしろ、ある種の半正定2次計画の最適解の存在という割と微妙な問題に対するPang氏自身の最近の結果に重点がおかれていたため、チュートリアルを期待して来た人々には意外だったかもしれません。しかし、ホワイトボードを使ったPang氏の講演は論理に無駄がないと同時に、話全体の構成に時おり言及しており、講演の仕方に関しても参考になりました。

研究会終了後、当然のようにコンパがおこなわれました。「講演内容が理論的なうえ、英語だったので、今日はよくわからなかった」という声も多く聞かれまし

た。確かに、あまり馴染みのない専門的な話を外国語で聞いて理解するのは難しい。少なくとも、母国語の場合と比較して、多大な労力・集中力を必要とするとは間違いありません。実際、筆者も第4回目の会合でのEiter氏の講演では、途中で全く分からなくなってしまっていました。英語での講演を多く設定することが、「若手の会」にとって適切かどうかも議論の分かれるところかもしれません。しかし、こうした事態を避ける有効な方法は、英語であれ日本語であれ、「分からなくなったら、即座に質問する」習慣を身につけることでしょう。決して易しいことではありませんが、そのような行為が許される、いや奨励されるような雰囲気を作っていこうと思っています。

話が前後しましたが、第4回目の会合は、9月8日(金)に京都大学工学部で開かれ、Wien工科大学のT. Eiterさんと奈良先端科学技術大学院大学の佐々木美裕さんが発表されました。

Eiter氏の講演は、アブダクション(仮説生成)の計算複雑度に関するものでした。アブダクションとは、ルールと1つの現象が与えられたとき、その現象の生じた原因を見出すという非単調推論の重要な問題です。Eiter氏は、さまざまな尺度のもとでの命題論理におけるアブダクションの計算の複雑さについて、紹介されました。前半部分は、人工知能の基本的概念、具体例など盛り沢山であり、素人の我々にも分かりやすく、興味深く講演を聞くことができました。

佐々木氏の講演は、航空路のハブ・スポークモデルに関するものでした。学生の発表者としては最初ということもあり、当初は若干緊張気味に見受けられましたが、次第に慣れ、無難にまとめていました。研究自体は、これまでの延長線上で新しい問題に着手したところといった感じで、未完成のものでしたが、それだけに、問題に取り組もうとする姿勢が鮮明で、印象的でした。今後の発展が大いに期待されるようです。

このように、これまでのわずか4回だけでも、会合の形式が多様であり、内容も多岐にわたっています。これは、従来の研究部会の形式にとらわれず、新し

いことなら何でも取り入れて、有用で意義のある会にしたいという方針を反映していからです。とはいえ、研究会の運営に不慣れであることも否めません。諸先輩方からの有益な助言をいただければと思っています。

ところで、「OR若手の会」では、奈良先端科学技術大学院大学の田地宏一さんの手によって、メーリング・リストを管理しており、10月現在64名(企業関係者16名;大学関係者20名(うち韓国1名);学生28名)の方が登録されています。このメーリング・リストを通じて、各種の案内が送られる他、登録者全体への質問等、研究活動を進める道具としても活発に使われ始めています。

たとえば、住友金属工業の松崎健一さんからの「内点法を勉強するにあたり、何か良いテキストがあれば教えていただけないか」と思い、皆さんにメールしました。本、論文、何でも結構です。理論的基礎から勉強し、プログラミング実験までおこないたいと思っています」という質問には、上智大学の村松正和さんから、若干の宣伝も含めて、懇切丁寧な回答が寄せられました。

「若手の会」という名がついていますが、年齢制限があるわけではありません。若手に限らず「ORの鉄人」の方々の参加、また、メーリングリストへは関西在住の方に限らず、ぜひ多くの方々の登録を期待しています。企画の提案や研究発表の希望は、主査または幹事(田地・松崎・岩田)まで、お寄せください。

[メーリング・リストへの登録の方法]

Subject欄にappendと書いたメールをksmap-control@genesis.aist-nara.ac.jpへ送ってください。これだけで登録されます。なおメールの本文は、

名 前 (漢字&ローマ字)

所 属

住 所

電話番号

簡単な自己紹介

を記入してください。これらは各個人のプロフィールとして登録されます。